

横浜グリーンエキスポが目指す姿と 準備状況について

令和8年3月19日

国際園芸博覧会担当大臣

(1)横浜グリーンエクスポが目指す姿

- 横浜グリーンエクスポは、花や緑、エンターテインメント、グルメ等に加えて、**日本らしい文化・ライフスタイル**や、我が国の強みである**グリーン技術**を発信し、みんなが**「楽しめる万博」**を目指す。
← 国際園芸博の主眼は園芸産業の発展から環境、福祉等に拡大。近年、環境を巡る国際的な潮流が変化。

これまでの 国際園芸博覧会

花き・樹木・造園技術等を国際的に紹介・評価し、**園芸産業の発展を促進**

1948 国際園芸家協会(AIPH)設立
1990 大阪花博



博覧会を契機とした
まちづくり、社会課題への貢献

1993 IGA -都市と自然-
1999 昆明博-人間と自然- など



社会の健康と福祉、
環境の向上を図るための
植物利用の促進

2015 AIPH規則変更

環境を巡る国際的な潮流

- **SDGs**
・17目標を2030年までに達成
- **カーボンニュートラル**
・パリ協定2030年目標
- **ネイチャーポジティブ**
・自然の損失を2030年までに反転
・陸域/海域の30%を保全
- **サーキュラーエコノミー**
・循環経済関連ビジネス市場規模を80兆円以上(2030)

横浜グリーンエクスポが 目指す姿

みんなが「楽しめる万博」へ

1000万株の圧倒的な花と緑、エンターテインメント、世界のグルメ、70程度の国・国際機関による国際色豊かな庭園・出展、16の企業パビリオン 等

横浜グリーンエクスポのテーマ：幸せを創る明日の風景



日本らしい文化や ライフスタイルの発信

自然との共生、盆栽、生け花、伝統工芸、農、食文化 等



グリーン技術の産業見本市

企業等の最先端のグリーン技術の見本市として、国際レベルでのビジネスマッチングを図り、成長投資へつなげる



出典：完全閉鎖型植物工場技術「Culture Machine」
(株)プランテックスHP

会場のイメージ

**GREEN
×
EXPO
2027**
YOKOHAMA JAPAN



(2)横浜グリーンエキスポの準備状況

入場券販売

開幕1年前となる3月19日より公式チケットサイトにて前売り入場券のWEB販売開始

入場チケットの種類・価格

販売期間	券種	概要	大人 (満18歳以上)	中人 (満12~17歳)	小人 (満4~11歳)
前売チケット 2026年3月19日~ 2027年3月18日	1日券 (早割価格)  1日券	会期中いつでも1回入場可	4,900円	3,000円	1,400円
	特別割引券  特別割引券	障がい者手帳等をお持ちの方および 同伴者1名が購入可能で、 会期中いつでも1人1回入場可	2,800円	1,700円	800円
前売・会期中 販売チケット	通期パス  通期パス	会期中いつでも何度も入場可	28,000円	16,000円	6,500円
	夏パス  夏パス	夏の決まった期間(7/1~8/31)に 何度も入場可	12,000円	7,000円	3,000円
会期中販売 チケット	1日券 (通常価格)  1日券	会期中いつでも1回入場可	5,500円	3,300円	1,500円
	夜間券  夜間券	会期中いつでも17時以降1回入場可	3,500円	1,900円	900円

入場チケットの購入ステップ



入場には、来場日時予約が必要となります。
(今後開始予定)
公式チケットサイト以外でも、旅行代理店
や各種プレイガイド等チケット販売事業者
による販売も予定しています。

詳細は、協会HPの
チケットインフォメーション
をご確認ください。



2027 チケット 🔍

(2)横浜グリーンエクスポの準備状況

国際出展・企業出展

- 参加する国・国際機関は、「70程度」を上回る見込み。
注：政府目標は「70程度」（R5.8.31関係閣僚会議決定）。
- 企業出展については、全16社のパビリオンの概要が公表。

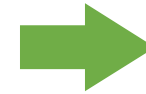


今後の課題

参加契約や展示整備の着実な推進に向けた進捗管理

協会の体制強化・企業協賛

- 前回の関係閣僚会議での総理指示等を受け、国、自治体、民間等から、マネジメント機能の中核を担う人材を増員。4月には約460名体制まで拡充できる見込み。
- 博覧会運営に必要な人員を確保すべく、夏頃を目処に500名規模への拡充を目指す。
- コンテンツ充実に必要な企業協賛は進捗しているが不十分。



人材派遣に向けた関係業界への働きかけの強化



トップセールスによる企業協賛、コンテンツ充実にに向けた関係業界への働きかけの強化

開催機運の醸成

- 全国的な認知度向上と機運醸成のため、一年前イベントやキャラバン等の取組、利用者の多い施設でのポスター掲示、デジタルサイネージでの情報発信、海外向けプロモーションを実施。
- 今後、コンテンツの充実と併せて、有名人やインフルエンサーの発信力も活用して、戦略的な機運醸成に取り組むことが必要。



コンテンツ充実と併せて、広域的に広報・プロモーションを強化

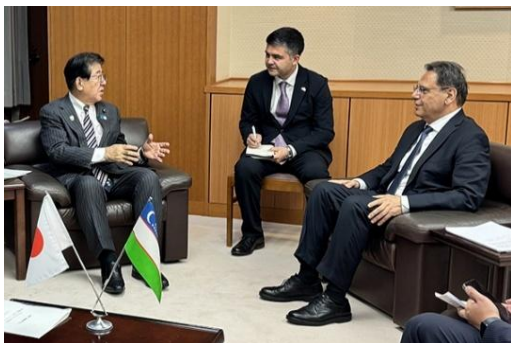
參考資料

- 国名等の公表に同意した国・国際機関は、61カ国となり、参加を調整中の国も含めれば、政府目標※の「70程度」を上回る見込み。 ※R5. 8. 31関係閣僚会議決定

■ 対外公表に同意した国・国際機関名（3月18日時点、61ヶ国）

- 【アジア】 インド、韓国、タイ、ネパール、東ティモール、ブータン、ベトナム、マレーシア
- 【中東】 イエメン、カタール、シリア、ヨルダン、レバノン
- 【大洋州】 ソロモン諸島、パラオ、フィジー、
- 【欧州】 アゼルバイジャン、イタリア、キルギス、セルビア、タジキスタン、トルクメニスタン、ルクセンブルク
- 【米州】 米国、エクアドル
- 【アフリカ】 アンゴラ、ウガンダ、エジプト、エスワティニ、エチオピア、ガーナ、ガンビア、ギニア、ケニア、コートジボワール、コモロ、コンゴ（民）、サントメ・プリンシペ、ザンビア、ジブチ、ジンバブエ、スーダン、赤道ギニア、ソマリア、チャド、トーゴ、ブルンジ、ベナン、ボツワナ、マダガスカル、マラウイ、マリ、南スーダン、モーリタニア、モザンビーク、リベリア、レソト
- 【国際機関】 ITTO（国際熱帯木材機関）、WEP（国連世界食糧計画）、UNU（国連大学）、UN-habitat（国連人間居住計画）

■ 参加招請活動等の例



▲ウズベキスタン、タジキスタン閣僚の表敬訪問（12/18）



▲伊メローニ首相から参加表明（1/16）



▲アメリカ関係者による署名後の会場視察（1/15）

【参考】参加表明国・国際機関公表ページ
外務省HP 協会HP



- 前回の関係閣僚会議等での総理指示等を受け、**国、自治体、民間等から、マネジメント機能の中核を担う人材を増員。**
- 2026年4月には**約460名体制**まで拡充できる見込み。博覧会運営に必要な人員を確保すべく、**500名規模への拡充を目指す。**

2025年10月末時点の体制

・事務総長・次長(役員)5名

・2室14部体制

合計 **245名**

- 国、独法 38名
- 自治体等 115名
 - ・横浜市 87名
 - ・神奈川県 16名
 - ・その他 11名
- 民間 77名
- その他 16名

マネジメント機能 の抜本強化

2026年1月～

国、自治体、民間等から、マネジメント機能の中核を担う人材を増員

(主な内容)

- 事業総括機能の強化
- 輸送・交通対策機能の強化
- 入場券販売・プロモーション強化
- 国際出展工事の推進
- 企画・コンテンツ強化

※大阪・関西万博経験者、豊富な行政経験を有する者を含む。

**○295名体制まで拡充
(2026.3.19時点)**

追加の 要員派遣

2026年4月～

開幕1年前の段階で、博覧会運営に必要な人員をできる限り確保

(主な内容)

- ・来場者サービスなど運営全般
- ・広報プロモーション
- ・国際参加国への支援
- ・交通・輸送対策
- ・警備、サイバーセキュリティ
- ・出展・展示
- ・国内外の要人対応 等

**○約460名体制まで拡充見込み
(2026.4時点)**

○500名規模への拡充を目指す

【参考】開幕に向けた機運醸成の取組

- 全国的な認知度向上と機運醸成のため、**一年前イベントやキャラバン等の取組**を始め、**利用者の多い施設でのポスター掲示**、デジタルサイネージでの情報発信を実施。
【開催1年前に合わせた国からのポスター掲出数】47都道府県で約2.2万枚（2026年2月末時点）
- 日本政府観光局(JNTO)による特設ページの開設など、海外向けプロモーションも強化。

国内向けの情報発信

- ・企業向けの説明会やグリーン技術の展示会等への出展によるPR。
- ・トウクトウクの大員表敬&新ポスターのお披露目、トウクトウク&ミヤクミヤクのコラボによる地方キャラバン（札幌、仙台、東京、福岡）。
- ・鉄道駅、空港、SA/PAなどの交通結節点のほか、全国のショッピングセンター、公園、植物園、庁舎、美術館、博物館、病院、企業オフィスなど利用者の多い施設にポスターを掲出。

【トウクトウクの活躍】



【企業向けのPR】



【交通結節点へのポスター掲出】



海外向けの情報発信

- ・「横浜グリーンエクスポ+観光」の魅力を特設ページで海外向けに発信。
- ・今後、SNSや海外の旅行関連イベント等を活用してプロモーションを展開。



JNTO特設ページ

【参考】横浜グリーンエクスポ会場計画



- テーマ営業出店**
 テーマに合わせた展示とともに飲食等の提供を実施。
- N. JAグループ P. 明治グループ
 O. 株式会社丸兆 Q. 山崎製パン株式会社

国際出展
 参加を予定する国・国際機関は、
 目標の「**70程度**」を上回る。

Village出展 カーボンニュートラルやネイチャーポジティブなど、新たなグリーン社会実現に向けた企業による大規模な出展。独創的な展示や体験コンテンツを展開。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| A. 東急グループ | G. 大和ハウス工業 株式会社 |
| B. 株式会社 KTグループ | H. 東邦レオ 株式会社 |
| C. NTT東日本 株式会社 | I. 竹中グループ |
| D. 株式会社 大林組 | J. 住友林業 株式会社 |
| E. 三菱国際園芸博覧会総合委員会 | K. 相鉄ホールディングス 株式会社 |
| F. 鹿島建設 株式会社 | L. 清水建設 株式会社 |

花・緑出展
 花と緑のプロフェッショナルが、庭園や花壇、生け花や盆栽、新品種・希少種など、多種多様な花・緑の作品を出展。
 出展内定者：360件（うち、屋内198件、屋外159件 ※重複あり。自治体からの出展を含む）各Village内で展開。